

1. 評価結果概要表

作成日 2008年2月19日

【評価実施概要】

事業所番号	1273500296
法人名	株式会社白松
事業所名	グループホーム白松
所在地	〒289-1141 千葉県八街市富山1345-16 (電話) 043-444-6182

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	〒260-0026 千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター		
訪問調査日	平成20年2月19日	評価確定日	4月17日

【情報提供票より】(20年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋耐火造り		
	2 階建ての	2 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 ~ 60,000円	その他	食費40,500, 水道光熱費10,000, 理美容代1,600 ~ 1,800, 管理費10,000など	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(30,000円)	有りの場合	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	650 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1,350 円			

(4) 利用者の概要(2月19日現在)

利用者人数	6 名	男性	1 名	女性	5 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人三矢会 八街総合病院
---------	----------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR八街駅から車で5分程の所にあり、広い敷地の中には、手入れされた家庭菜園、芝生にはテーブルとベンチが置かれてあり、ゆったりとしている。敷地内の遊歩道には神社まで続く桜並木があり、入居者にとっては楽しい散歩コースである。入居者と共に菜園で汗を流し、収穫、下ごしらえをして食卓に野菜を採り入れ、季節を味わえるようメニューが工夫されている。本館の有料老人ホームとの交流、行事参加で入居者への楽しみ事の支援、また地域への取り組みとしてホーム1階のホールを地域に解放したり、非常災害時には本部に備蓄が完備されているので役立てられる用意があることを日頃より伝えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回指摘された尿臭は居室を改装し、トイレは清掃を徹底して清潔を保っている。介護計画における入居者家族の意見反映、職員との共有はケアマネジャーの交代で徐々に改善されてきているが、個々の状況変化に即した見直しは今後も取り組みが求められる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者1人で記入している。自己評価を記入することによって自己覚知にもなりサービス、ホームの質の向上にも繋がる。今後は職員全員参加による取り組みが求められる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議が開催されていない。それに代替する機能として3ヶ月に1回家族懇談会を設置しているが、今後は懇談会を運営推進会議として広く地域、市町村にも呼びかけていく予定である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族懇談会、行事、面会の折々に相談、要望を伺っている。また重要事項説明書や毎月の新聞にも窓口を掲載している。今後は表出されない意見、要望を汲み上げる仕組み等の取り組みが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元の小、中学校の運動会、老人会に参加、ボランティアとの交流、地元の高校の介護実習の受け入れ等をしている。また本部主催の納涼祭には地域に広く呼びかけて沢山の参加がある。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念はリビングの奥に掲示されているが長い文章で近づかないと読めない。分かりやすい言葉で目に付きやすい場所に掲示されることが望まれる。	○	入居者、職員はもとより家族、来訪者にも分かりやすいホーム独自の理念を作り上げ、明示することが期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者が喜ぶことが、理念に沿っているということを、常に職員と確認しながら日々のケアに取り組んでいるが、理念の解釈が統一されていない。	○	分かりやすく簡潔な理念が作成され、日々のケアの中で理念の共有がなされていけば、より質の高いサービスに結びつくと思われる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の理、美容院の利用、老人会、小、中学校の運動会への参加、また本部主催のクリスマス会、納涼祭には広く参加を呼びかける等して地域に溶け込むべく交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価表は管理者が記入した。前回の外部評価結果は全職員に周知し、一つひとつ改善に向けて取り組んでいる。	○	今後は職員全員に自己評価表を配布、または回覧して評価項目への理解を深め、意見、問題点等を話し合い管理者が集約する取り組みがなされる事が望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行われていないが、それに変わるものとして入居者、家族を交えた意見交換会を3カ月に1回開催しホームの行事報告、意見、要望の抽出を行いサービスの向上に取り組んでいる。評価結果は家族に郵送し報告している。	○	運営推進会議の意義は、入居者、家族、地域住民、地域包括支援センターや市町村等幅広い立場の人に参加を呼びかけて率直な意見を引き出しサービスの向上に活かしていくことにある。今後は意見交換会を運営推進会議のなかで開催されることが必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険課に出向いて要望、意見の交換をしているが、十分な連携体制が出来ているとはいえない。	○	課題解決のためには市町村の理解や支援が必要が多く、事業所だけで抱え込まず情報を共有して解決を図っていく取り組みが今後とも望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の日々の様子、1カ月のバイタルチェック表、受診記録、職員の異動の通知等は毎月発行の新聞と共に送付している。金銭管理は一括して本部で行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口を掲載、また毎月郵送のホーム便りにも掲載している。年1回の家族会、3カ月1回の意見懇談会を開催して気軽に何でも話しあえる機会を設けている。	○	ホームや懇談会に出席出来ない家族、また表出を好まない家族からも意見、要望が出せる仕組みについては未整備である。意見箱の設置等の取り組みが望まれる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	6名の入居者には担当を決めず、全員で介護に携わっていて皆顔馴染みなので影響はほとんど無い。開設当初からのスタッフである管理者の明るさと包容力が、入居者に安心感を与えられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間スケジュール表に従って本部の研修に全員参加している。外部研修は交代で参加し、新人研修は本部と合同で実施している。または個々の担当部門別に参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に出席して情報交換している。他ホームの見学は受入れているが、同ホームから見学に行く時間はなかなかとれない現状である。	○	他ホームとの交流や見学は、いろいろな気づきを得られるため、今後も積極的な機会作りが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学時には家族を交えて湯茶を勤めてゆっくりお話を伺う。体験入居、短期滞在もできる。またホームの行事にも誘い、じょじょに馴染んで頂くようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と共に家庭菜園を楽しんで収穫の喜びを共有したり、人生の先輩である入居者と共に家事をしていく中で教わることも多い。職員の体調が優れない時、入居者のほうから優しく声をかけられた事もあった。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>居室で入居者一人ひとりと話し合う時間を作り、希望や意向の把握に努めている。困難な場合は家族に聞くこともある。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、入居者、家族、介護支援専門員、施設長でカンファレンスを行い、作成している。また、業務日誌に記載された職員の気づきなどを反映し作成しているが、入居者の希望が最優先された介護計画には至っていない。</p>	○	<p>入居者本人の意向を重視した介護計画作りが大切と思われる。また、作成時には現場を一番熟知している職員もカンファレンスに参加することで、入居者の課題が把握でき、本人本位の具体的な介護計画になるとと思われる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは、介護認定の期間が終了する時に行っている。入居者の急な体調変化への対応は、申し送り職員に伝え共有を図っているが、介護計画を書き換えるまではしていない。</p>	○	<p>特に変化のない入居者であっても、3～6ヶ月のスパンで介護計画を見直すことが必要と思われる。また、変化があった場合は申し送りのみに終わらせず、家族への報告を含め計画書の書き換えが必要と思われる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	盆、正月、彼岸には外泊や家族との外食の支援を行っている。また、ゴルフが好きな入居者の希望で、ホーム敷地内に練習場を造った。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週水曜日、協力医療機関の嘱託医による診察が行われている。家族からの要望で入居後のかかりつけ医をそこに変更した入居者が多い。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療行為を必要としない場合は、ホームでターミナルケアを行う。入居時、家族に説明し、納得していただいている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	命令調な言い方や、入居者の尊厳を傷つけるような言葉かけをしないことを全職員で徹底している。契約書など個人情報に関する重要書類は母体である有料老人ホームで管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は入居者のペースの把握ができており、一日いちにち好きな過ごし方が出来るように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は配膳前のテーブルを拭いたり、食後の食器の片付けをしたりしている。食事は入居者と職員と一緒に話しをしながら、時にはさりげない介助を入れ、楽しい雰囲気である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴では疲れるという入居者の希望もあり、一日おきに午後からの入浴支援を行っている。中には気の合った人と一緒に入浴をする方もいる。入浴時は必ず職員が見守りや介助を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は入居者一人一人の得意なものを把握し、洗濯物たたみ、三味線、貼り絵、手芸などの支援を行っている。菜園を作り入居者と職員で野菜作りをし、献立にも取り入れている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広大な敷地の中に遊歩道があり、穏やかな温かい日には散歩を楽しんでいる。一日おきの食材の買い物には、入居者が順番に職員と一緒に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホームの前の道路は、交通量が激しく家族からの要望もあり、安全を最優先し鍵をかけている。しかし、入居者が戸外に出たいと言う要望には、職員が必ず付き添い応えるように支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルも整備され、定期的に訓練を行っている。ホームが2階にあるため、布団に入居者を乗せ階下に下るしたり、担架を使った訓練なども行っている。また、災害に備え3か月分の食料や飲料水などの備蓄もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	目分量ではあるが職員は、入居者一人ひとりに合った栄養バランスを心がけている。介護食士の資格を持つ職員もあり、野菜を中心にしたバランスの良い献立が提供されている。水分補給も個別に記録をし、支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは窓を大きく取り、日当たりの良い暖かい空間になっている。また、入居者、職員共同で作った、手作り雛人形が飾られ、季節感を出している。全員で紙を丸めて作った入居者をかたどったアートは、八街市から表彰され、廊下に飾られている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室のドアの脇には各自形の違う表札がかけられ、それが目印になっている。部屋の中には使い慣れた筆筒や仏壇が置かれ、安心して過ごせる居室になっている。		